



アンサンブル



2024.11.29
No.15

「家族」のこと…



11月17日は「家庭の日」。この日を機に、博報堂教育財団こども研究所が、家族に関する調査を行いました。この調査は、「家庭の日」前後1週間が「家族の週間」と定められていることにちなみ、9月22日に小学4年生～中学3年生の各学年男女50名ずつの子どもとその保護者600組にインターネットで行い、11月5日に調査結果が公表されました。

主な結果は次の通りです。

- 家族の仲の良さを聞いたところ、「仲が良い」が9割を超えた。
- 家族内の役割では、「お父さん」は「お金を稼ぐ人」が最も高く87.0%。続いて「自分のことを応援」「困ったときに助けてくれる」など精神的支えに関する役割が約7割。
- 「お母さん」は「ご飯を作る人」が最も多く、続いてはお父さんと変わらず「自分のことを応援」「困ったときに助けてくれる」が多かった。
- 普段の生活の中で、家族全員で一緒に過ごしていることについては、「学校の無い休日に夕ご飯を食べる」が約7割。
- お父さんと一緒にしていることTOP3は、「スポーツをする」「ゲームをする」「スポーツの試合を観に行く」だった。
- お母さんと一緒にしていることTOP3は、「料理やスイーツを作る」「美容院・床屋に行く」「好きな音楽やドラマを教え合う」だった。
- 家族といると「安心する、ほっとする」が最も高いスコアだった。
- 「もっと家族と話したい」「もっと家族と一緒にいたい」と思っている子が、約7割いる一方で、「もっと家族の役に立ちたい」と思っている子が約7割いる。

忙しい毎日の中で、家族全員と一緒に過ごす機会は限られていますが、家族の間で仲の良い関係性を築いていることがうかがえます。大小はありますが、「良いときには誰よりも褒めてくれて、悪いときは味方となり寄り添ってくれる」家族の存在をありがたいと、子どもたちは感じているようです。

やはり、子どもたちの心のよりどころとして、仲の良い家族の存在は大変大きいものがあると感じます。

詳しい調査結果をお知りになりたい方は、博報堂教育財団こども研究所のホームページをご覧ください。